

新たな総合5か年計画策定のための地域懇談会実施状況

(平成24年3月27日現在)

■木曾地域懇談会

日 時：平成23年12月19日（月） 13時30分～16時00分

参加者：30名

委員参加者：青山佳世委員、中山千弘委員

主な意見等：

- ・町村のコミュニティ維持のためにも人口の減少を食い止める工夫を。
- ・県境にあることの特殊性を有効に活かすべき。
- ・医療の推進のためには、医師だけではなく看護師の確保が不可欠

■佐久地域懇談会

日 時：平成24年1月17日（火） 13時30分～16時00分

参加者：21名

委員参加者：小澤吉則専門委員

主な意見等：

- ・人を呼ぶためには、有名になることが必要であり、それが地域振興にもつながる。
- ・新しい問題が起きたときにチャレンジする風土を作ることが必要
- ・若い人に政策を決める場に参加してもらうことが必要

■上小地域懇談会

日 時：平成24年1月19日（木） 13時30分～16時00分

参加者：11名

委員参加者：母袋創一委員、上原貴夫専門委員

主な意見等：

- ・次の世代を産み育てるための思春期の健康教育が大切
- ・地域内の市民・行政・企業がつながって、地域で自然エネルギーを生み出して地産地消することにより地域が潤う。
- ・今ある資源に付加価値をつけて情報発信していくことが必要

■飯伊地域懇談会

日 時：平成24年2月6日（月） 13時30分～16時00分

参加者：12名

委員参加者：増田綾子委員、諸富徹委員

主な意見等：

- ・技術力はあるが経営力の弱い中小の製造業が多いため、地域全体で黒字を出せる経営者を育てる仕組みが必要
- ・危機的な状況にある観光のマーケティング能力を高め、今から観光で生活する者を主体としたビジネスを確立する仕組みが必要
- ・リニア中央新幹線中間駅の設置を見据え、地域のあり方を地域が一体となって検討することが必要。また、リニア中央新幹線開通に伴い発生するであろう地域経済の変化に対応できる力を今から身に付けておくことが必要

■大北地域懇談会

日 時：平成24年2月7日（火） 13時30分～16時00分

参加者：24名

委員参加者：樋口一清委員、扇田孝之専門委員、中澤勇一専門委員

主な意見等：

- ・素晴らしい景観をつくる1次産業の維持という意味でも高齢化や人口減少対策が必要
- ・地域住民の暮らしが幸せであれば観光客もその幸せのおすそ分けを受けられる。地域住民満足度と観光客満足度の両輪での向上が重要
- ・高齢者の向こう3軒両隣りの関係に代表されるような、普段から組織の枠を超えたつながり、絆を大切にしたい地域づくりが重要

■諏訪地域懇談会

日 時：平成24年2月8日（水） 13時30分～16時30分

参加者：29名

委員参加者：青山佳世委員、小口寿夫委員

主な意見等：

- ・諏訪圏全体の観光資源の活用方法について、県が中心となって戦略を立てることが必要
- ・生産・流通・消費者が価値感を共有しながら、地域でブランドを一本化するなど、持続的に儲かる農業の構築が必要
- ・先進的な取組を行っている中小企業も多いため、企業を地域に残すための産業施策や、企業間連携が必要

■北信地域懇談会

日 時：平成24年2月9日（木） 13時30分～16時00分

参加者：14名

委員参加者：野原莞爾委員

主な意見等：

- ・裾野が広く地域経済への貢献度が高いことから広域的な取組を含めた観光振興が必要
- ・若者がやってみたいと思えるような農業で生活ができる環境づくりが必要
- ・集落維持のためNPOなどの活動に加え高齢者の力なども活用しながら、地域の人が地域を支えるしくみを構築すること、誇りを持てる地域づくりをすることが必要

■上伊那地域懇談会

日 時：平成24年2月20日（月） 14時00分～16時00分

参加者：11名

委員参加者：松岡英子委員、上原貴夫専門委員

主な意見等：

- ・産業基盤づくりと、それを行う人材の育成をつなげて考えていくべき。
- ・企業と一体となったキャリア教育を充実していくことが必要
- ・すべての住民が計画の実現に向けてやる気になるような動機づけを行うことが大事

■松本地域懇談会

日 時：平成24年3月5日（月） 13時30分～16時00分

参加者：20名

委員参加者：扇田孝之専門委員、武者忠彦専門委員

主な意見等：

- ・多くの学校が地域講師による授業や体験学習を実施していることは、長野県教育の大きな成果であり、地域講師が連携し、学校と地域を結ぶ絆の強化が必要
- ・行政に加え各種団体も縦割りが多。各々が、声を出して集まる機会を設けて情報共有したり、外から来て県内に何があるかわからない観光客と情報共有すること等が必要
- ・福祉があっても地域が無ければ福祉にならない。コミュニティづくりが必要

地域懇談会でいただいたご意見・ご提言の分野ごとの件数内訳

意見件数:379件(長野地域を除く9地域分)

環境		…(45件)	
温暖化	…(12件)	森林	…(11件)
水・大気環境	…(4件)	自然環境	…(4件)
廃棄物	…(3件)	環境保全活動	…(1件)
景観	…(5件)	農山村の多面的機能	…(5件)
産業・雇用		…(131件)	
ものづくり産業	…(17件)	観光	…(48件)
農業	…(40件)	林業・木材産業	…(7件)
建設業	…(4件)	商業・サービス業	…(8件)
ブランド	…(1件)	雇用・労働環境	…(6件)
医療・福祉・安全・安心		…(87件)	
健康	…(8件)	医療	…(8件)
子育て	…(10件)	高齢者福祉	…(14件)
障害者福祉	…(10件)	地域福祉	…(6件)
社会擁護	…(2件)	治山・治水・砂防	…(3件)
防災	…(22件)	交通安全	…(1件)
消費生活	…(2件)	食品・医薬品等の安全	…(1件)
教育		…(30件)	
学校教育	…(26件)	生涯学習・青少年	…(2件)
芸術文化・地域文化	…(2件)		
地域・人権・共同・社会基盤		…(72件)	
地域活性化	…(23件)	NPO・ボランティア	…(5件)
男女共同参画	…(2件)	国際化	…(2件)
農山村	…(16件)	都市環境・住環境	…(1件)
高速交通ネットワーク	…(11件)	道路ネットワーク	…(9件)
公共交通ネットワーク	…(3件)		
県政の推進		…(14件)	
基本目標		…(0件)	

【地域別意見件数】

地域名	佐久	上小	諏訪	上伊那	飯伊	木曾	松本	大北	長野	北信	合計
環境	8件	2件	17件	1件	6件	1件	7件	1件		2件	45件
産業・雇用	5件	19件	36件	4件	16件	10件	17件	13件		11件	131件
医療・福祉・安全・安心	13件	6件	20件	2件	22件	9件	4件	8件		3件	87件
教育	7件	3件	6件	8件	3件	1件	1件	0件		1件	30件
地域・人権・共同・社会基盤	5件	5件	4件	5件	20件	4件	20件	4件		5件	72件
県政の推進	3件	2件	0件	3件	2件	0件	2件	2件		0件	14件
基本目標 (キーワード)	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件		0件	0件
合計	41件	37件	83件	23件	69件	25件	51件	28件	0件	22件	379件

※長野地域はH24年度に実施予定

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
温暖化	環境フェアの継続、環境家計簿の普及のほか、マイカー通勤自粛について、地域全体で継続して取り組む仕掛けができないか、考えて欲しい。	佐久
	行政も新エネルギー問題への取組をもっと前面に出すべきである。	佐久
	2020年までに自然エネルギーを全体の電気使用量の15%まで増やしたい。	上小
	東日本大震災による原発事故により、自然エネルギー活用への期待が高まっている。当地域は地形的に自然エネルギーの利用に恵まれているため、積極的に利用を推進すべき。同時に自然エネルギーを住まいに利用してきた先人の暮らしの知恵を活かした、自然の理に合う住宅づくりができればいいのでは。	飯伊
	佐久地域をスマートエネルギー特区に指定し、メガソーラーの設置に向け、県が中心になって引っ張って欲しい。	佐久
	温暖化対策のため、化石燃料になるべく頼らず、太陽光発電、小水力発電等の利用拡大に努め、エネルギー需要を抑制することが必要	飯伊
	今後、低炭素型あるいは自然エネルギー社会を見据えた、太陽光発電、水力発電、火力発電といった方向に目を向ける必要がある。	飯伊
	地域内の市民・行政・企業がつながって、地域で自然エネルギーを生み出して地産地消すること。	上小
	自然エネルギーの活用については、地産地消を基本とし、数値目標を設定するなど計画的に取り組んで欲しい。	諏訪
	バイオマスを活用した発電を研究している。ヒシも活用できる。地域内に発電装置を分散設置し、エネルギーの地産地消を行うべき。	諏訪
県主導で新エネルギーの推進、エネルギーの地産地消を進めて欲しい。	北信	
原発を廃止して欲しい。家庭や職場で節電に努めることが必要	飯伊	
森林	森林面積が大きいことが当県の特性の一つになっている。森林保全の重要性を総合計画にしっかりと位置づけて欲しい。	諏訪
	森林の持つ機能の多様性ということがいわれるが、森林がどのような機能を持つのかということは研究していく必要がある。	佐久
	国の制度改革により、搬出間伐主体となり義務付けが多くなった。地域に合った対応を是非検討して欲しい。	諏訪
	森林整備に関する国の制度改革により、搬出間伐主体となった。小さな団体も取り組めるよう、機材のリース等に対する補助をお願いしたい。	諏訪
	自然災害防止の趣旨からも、特定地域の保全だけではなく、一般の里山整備を盛込んで欲しい。	諏訪
	森林税は、継続して欲しい。	佐久
	森林づくり県民税を継続し、水源対策も含め、県単事業の強化をお願いしたい。	諏訪
	森林づくり県民税を継続し、ペレットストーブの普及にも充てて欲しい。	諏訪
森林整備の支障となる所有者の分からない森林が多いため、職権で解決する方策を検討して欲しい。	松本	
森林化している山際の荒廃農地の整備を進めるため、森林への編入を行政として進めて欲しい。	松本	
森林整備は県民の義務。里山は地域の資源であり、身近なところで様々な自然体験ができることをPRすることが必要	諏訪	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
水・大気環境	諏訪湖は流域下水道により水質浄化が進み、ヒシ、外来魚、カワアイサ等についても県の施策により成果を上げている。引続き対応をお願いしたい。	諏訪
	諏訪湖の湖底の貧酸素化が喫緊の課題となっている。地域と協力しながら解決に向けて対応して頂くようお願いしたい。	諏訪
	ヒシの除去のため、堆肥化のみではなく、食用として薬膳の研究など、ヒシを利用した特産品の開発にも取り組んでほしい。	諏訪
	外国資本による水源目当ての山林の取得については行政が目を光らせて欲しい。	大北
自然環境	諏訪湖の生態系の保全には、個々の現象にとらわれるのではなく、総合的、長期的な視点が必要である。	諏訪
	上高地へのニホンジカの侵入対策に早急に取り組んで欲しい。	松本
	登山道の整備を推進してほしい。	松本
	上高地における危機管理として、通信設備の整備、ヘリポートの整備に取り組んで欲しい。	松本
廃棄物	マイバック運動の取組には店舗によってばらつきがある。県の指導をお願いしたい。	諏訪
	物資の再利用が当たり前の時代に育った世代が、次世代に姿勢を見せ、エコの精神を引き継いでいく必要がある。	諏訪
	持続可能な資源循環型社会の形成は小さな団体の取組だけでは解決できない。リユース、リデュースを優先して行政、事業者、消費者が一体となって取り組み、消費者のリサイクルは最後の手段だという指導をお願いしたい。	諏訪
環境保全活動	子ども達の農業体験等だけではなく、自然体験というのを1つのベースとして入れていくべきではないか。	上伊那
景観	地域の景観に配慮した活動を行うことが必要である。	佐久
	リニア新幹線の開通に当たり、周辺地域の開発は景観等に配慮すべきでないか。その際、地域の合意形成を行うべき。	飯伊
	地域の景観に対する意識をより一層高める方策を推進すべき。	松本
	景観に関する基準や指針を踏まえた建築物や広告物が造られるような仕組みを検討すべき。	松本
	市街地に緑を増やすことでエネルギー負荷の軽減に効果があると思われるので、緑化を推進してほしい。	飯伊
農山村の多面的機能	野生動物問題は、農業や林業の衰退と裏腹な問題である。農業の振興、林業の保全という産業面を支えて野生動物問題を解決することが必要である。	佐久
	有害鳥獣対策には個体調整が必要である。その現場の農家が個体調整に関わることで効果が上がると思われる。	北信
	野生動物問題の解決には、地域の合意形成、普及啓発、協働活動をコーディネートすることが不可欠である。そのためには、若い人材の育成が必要である。	佐久
	鳥獣被害対策のため捕獲頭数の増加が課題だが、狩猟者の高齢化のため対応しきれていない。狩猟に対する理解を深めるとともに、若手の育成のためにも人口増につながる施策をお願いしたい。	諏訪
	猟友会の会員が減ってきている。特に若い担い手の減少が著しい。免許取得に係る手続きが厳しいことと、免許取得に経費がかかることが新規の担い手を阻んでいる。改善をお願いしたい。	木曾

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
ものづくり産業	蓄電やエネルギー製造装置の産業誘致により、新エネルギーの発信拠点として、特区を申請してはどうか。	諏訪
	航空機の資材や超電導技術の開発など先進的な取組を行っている中小企業も多い。海外進出でなく、国内にいかに残せるかということを見野に入れた産業施策が必要	諏訪
	人工臓器や医療機器等のヘルス分野へ生産の転換を図る中小企業が増えている。新産業育成の重点化をお願いしたい。	諏訪
	諏訪圏工業メッセの参加企業が県内に広がっている。県レベルの事業としての位置づけをお願いしたい。	諏訪
	産業基盤づくりというのは人が行うもので、その基盤づくりを行える人材をどうやって確保するか、そこがポイントとなるので、産業基盤づくりと人材育成は密接につなげて考えた方がよい。	上伊那
	策定中の長野県ものづくり産業振興戦略プランを着実に進めるべき。中でも、健康、医療、環境、自然エネルギー等の分野への支援を強力に行って欲しい。	松本
	環境分野、医療・健康・福祉等を中心とした知識集約型産業の振興に取り組んで欲しい。	松本
	ものづくりをベースにした地域ブランドとして、特色ある製品、商品、イベント等の開発・充実に取り組んで欲しい。	松本
	京浜、中京、東海など工業地帯との関係を強化し、県はパイプ役となって欲しい。企業のマッチング、中央情報を地元へつなぐために、県の役割を強化することが必要	大北
	円高が続いており中小企業の海外シフトが進んでいる。諏訪地域は業種が似通っている。関連業種を中心に、内需に向けた企業誘致を進めて欲しい。	諏訪
	企業誘致に当たっては、リニア中央新幹線も開通することから、製造業の下請けでなく、研究、開発部門等に特化してはどうか。特に食品製造業が多いことから食品会社や大学の研究所といった頭脳集団を誘致してはどうか。	飯伊
	電気自動車の構造を知るために、電気自動車を分解し、部品製造の企業が、自らの技術がどの分野で携われるかつかむ機会を作って欲しい。	佐久
	企業間連携は、県の枠組みを超えた取組が必要	諏訪
	中小企業が国内で生き残る視点で物事を考えていかななくてはならない。そのためのアドバイスが必要	飯伊
	法人企業の80～90%が赤字経営と言われている中で、地元商工業の実態をしっかりと捉えて、将来につながる経営を応援し、個々企業が頑張れる施策を打ち出すことが必要	大北
県全体では多様な地域があり、それぞれの地域の個性を活かした政策が行われることが望ましい。県としては地域単位でやりきれない、例えば、研究・開発支援のようなものに取り組んで欲しい。	大北	
企業の弱体化と雇用機会の減少、若者の地方離れを少しでも解消するため、マネジメントができ、利益が出せる企業経営者の育成が必要。そのためには地域で経営者を育てる仕組みが必要	飯伊	
観光	観光の差別化のポイントはおもてなしの心	上小
	地域に対する観光客の興味を引き出すためにも、ホスピタリティが重要である。	諏訪
	長野県の観光の最大の魅力は、この地に暮らす人が日々幸せであり、そこを訪れた人が、その幸せのおすそ分けをもらうこと。これからはそういうタイプの観光を目指していく必要がある。	大北
	外部の人の方が地域の魅力や良さを知っている場合が多いので、外部の人の意見・提言を取り入れる手段を確立できるよう県にサポートして頂きたい。	木曾

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	スキー産業の低迷は、サービス業としての認識の遅れが原因。索道事業だけでなく関係事業者全体のレベルを上げなければ、埋没してしまう。	上小
	スキー場毎の特徴に応じた、きめ細かい、ニーズに合った観光施策を地域と連携しながら進めて欲しい。	北信
	スキー客の低迷に対し、回復に向けて県を挙げて取り組んで欲しい。	諏訪
	観光について、高原鉄道構想など全国一律でない夢のある独自のものを考えていくべき。	諏訪
	県境にあることの特殊性を有利に活かすべきである。	木曾
	長野県は臨海地域に比べ食の魅力が乏しい。今後どのように取組を進めていくかが課題	諏訪
	農業だけでなく食と連携し、地域の観光の柱にすえられるようにしたい。	上小
	首都圏の人に聞くと、長野県は総じて食べ物がおいしいとあっていただいているので、観光の売り方として、長野県産の食材や自然環境が豊富なことを活かすことはできないか。	大北
	リニア中央新幹線の開通を見据え、今ある地域の素材を磨き上げ、新しい価値として外部に提示していく必要がある。	飯伊
	地域の資源を地域の人が消費するということが大切である。	佐久
	観光は経済的波及効果が高く、地域の産業と連携して地域産業を活性化させる一面があることから引き続き観光に力を入れて欲しい。	北信
	商工業や標高差を活かした農業などの産業や人間ドック等の保健医療と連携した観光に取り組み、海外も含め広く情報発信すべき。	諏訪
	温泉や八ヶ岳の漢方薬を利用した薬膳料理等地域の資源を具体的に調査しながら、長期滞在型の観光地となるよう施策に取り組んで欲しい。	諏訪
	長野県は自然が豊富すぎて、無料でいつも享受できるので、黙っていても観光客に来てもらえるのではないかという考えもあるかもしれない。観光としての売り方も、雄大な山を見せるばかりでなく、地域にあるお寺などを観光ルートに乗せていくような、再発見も必要ではないか。	大北
	地域全体の観光資源の活用方法について、県が中心となって戦略を考え、指導して欲しい。	諏訪
	産学官協働による滞在型観光を進めることが急務である。	諏訪
	東京都心では日常味わえない非日常体験ができることが観光のポイント	上小
	全国的には、休日の料金を平日並みに安くすることで観光客が増えているところもある。このような視点も必要	諏訪
	選択と集中、客の視点をキーワードとし、地域にあった方針をたててやっていると主体性がなくなる。個性を大事にしながら地域の良さを伸ばしていくべき。	上小
	観光地の評判を広める方法として、女性の口コミの効果は大きい。売り手のみで考えるのではなく、消費者の声を聞くことが大切。特に女性の声を多く取り入れて欲しい。	諏訪
観光の戦略・政策を考える場合、コンサルや学者等の意見ではなく、観光に自分の生活を置きながら、試行錯誤している人たちの意見、見識をもう少し表に出していく必要があるのでは。	飯伊	
観光を振興するためには、視野が広い、地域の枠に囚われない、長期的なビジョンももてる等を有したプロフェッショナルの育成が必要	飯伊	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	観光客を消費者に変えていく工夫が必要。そのために、今までのような縦割りの組織だけでなく、お互いにお互いのパワーを使える仕組みを作っていくことが必要	飯伊
	長野県の長期的な観光ビジョンが欲しい。そのビジョンに沿って各組織が連動し、一つの事業を行うことができるようにすることが必要であり、その為には組織の垣根を取り払うことも必要	大北
	観光事業を総合的に見ることが出来る部署や人材が必要であり、各分野の垣根を取り払うことが重要。同じことを違う組織で行っていることが多すぎる。	大北
	震災後外国人観光客が減っている。メディカルツーリズム、ものづくり観光、単なる語学だけに止まらないインタープリターの養成、インターンシップの場の提供等の教育旅行等、客さえ来てくれればよいのではなく、どういう客に来てもらうかという新たな視点が必要	諏訪
	北陸新幹線延伸に伴い、飯山駅から志賀高原等への2次交通をどうするかがインバウンドでも重要である。	北信
	市町村、民間と連携したインバウンドの整備に取り組むべき。	松本
	観光客の広域的な誘客に繋げるべく、スクリーンツーリズム（※映画のロケ地等への誘客）、スポーツツーリズムを新しい観光の柱として位置付けて欲しい。	松本
	大河ドラマ等への義仲の活用に入力を頂きたい。	木曾
	長野県を超えて、日本の国土軸の中で、観光をどう捉えるかということが必要である。	北信
	観光パンフレットを6市町村ごとに作成しているが、内容が重複しており経費の無駄遣いである。観光の目玉となるものを中心に統一的に取り組むべき。	諏訪
	広域観光を推進しようとしても、自治体間の壁がある。こうした意識を変えることが必要である。	北信
	広域連合を活用して観光とエネルギー活用の問題に取り組むべきである。	北信
	長野市以北の観光圏が設立されたが、こういう観光圏と県が連携していくことが必要である。	北信
	観光については、広域的に取り組むべきものと各地域で取り組むものに分野を分ける必要がある。	諏訪
	広域観光に重要な地域連携において必要となる道路等の環境整備をスピード感を持ってやって欲しい。	上小
	インバウンドを推進する必要がある。	上小
	海外からの誘客を促進するためのキャラバン隊の現地への派遣が必要	大北
	治安の良さや美しい自然が豊かというイメージを更に発信して、地方都市であっても世界から観光客を呼ぶという認識で取り組むことが必要である。	北信
	今ある資源に付加価値をつけて情報発信すること。	上小
	観光振興を目的とした物産展への出展の誘いも多いが、イベントにおけるPRは一過性であり、効果が薄い。特産物を安定的・長期的に販売できる常設の場を確保して頂きたい。	木曾
長野五輪以降、大きなイベントがなく、インパクトの強い効果的な「信州キャンペーン」が企画・展開されていない。魅力を発信し共感を得る「コーポレート・アイデンティティ」を強力に進めて欲しい。	大北	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
観光	フィルムコミッションへの積極的な支援を行うべき。	松本
農業	いかに就農者を育てていくかを考えなければならない。就農者を探し出すのも一つの方法だが、地域内で探すのには限界がある。UターンやIターンの受入窓口を整備することが必要である。就農希望者との1対1での対応では、安定して就農者を確保することではできない。	木曾
	地域環境を守る農業に対し、農業後継者育成、U I Jターン事業の推進などの支援をされたい。	飯伊
	農業の後継者不足について、定年期のUターンを支援し、地域農業を支えていくことが必要である。	北信
	最近是不景気なので農業をやりたい若者が結構いるが、どうすればいいかわからないという若者が多い。農業改良普及センターや農協などに協力して頂いて、どうすれば農業を始められるか、また、続けていける農業を丁寧に指導して頂きたい。	大北
	5年間で、就農あるいは漁業に従事する人達へ地域の技術を伝承し、人づくりを行わないと産業が育ってこない。人材育成というものが大変重要なので、計画の中に入れていったらどうか。	上伊那
	就農については深刻な状況であり、就農しても生業(なりわい)としてやっていけないというところもあるので、生業として成り立つような環境づくりと人材の育成をお願いしたい。	上伊那
	経営感覚を身に付けた農業経営者の育成が必要	飯伊
	農地の持つ多面的機能の重要性を認識し、生産・流通・消費者が価値観を共有しながら、若い農業者を育成していくことが重要	諏訪
	農業について、子供がやってみたいと思わせるような環境づくりが重要である。	北信
	家族で農業を支えていくことが、男女共同参画の観点や農業への思いを若い世代に伝えていくという観点からも重要	諏訪
	今後の農業は、大型化するのではなく、欧州で主流の家族経営のスタイルを中心とするべきである。企業の参入には反対である。企業は利潤を追求するのみ。農業というものは、生活そのものという考え方を前提に議論するべきである。	木曾
	若者が就農し、生活できる基盤の整備に取り組むべき。	松本
	農業は、多くのセールスポイントを一つに結び付ける重要な要であるため、計画における位置付けを見直すべき。	松本
	T P Pについて、現状の流通システムや生産システムを考えると、このまま取り入れると農業人口が大きく減少するなど大きなダメージを受ける。	佐久
	T P P、遊休農地の活用、新規就農の確保など行政の支援がないと農業は成り立たない。農業政策は転換期にあるが、引き続き支援をお願いしたい。	諏訪
	農業に対する補助制度は一時的なものが多い。継続的な補助をお願いしたい。	諏訪
	農地を守るためには、減反はやめるべきである。減反をやめて農地を使えば、農地は守られる筈である。	木曾
	地域の実態に合った農業のあり方を皆で考える必要がある。	上小
	結果を出して積み重ね、新しいものをプラスして積み重ねていくことが農業の発展に通じる。	上小
りんごの新しい化栽培技術の確立が必要	大北	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
農業	直売所・道の駅は生産者と消費者の交流の場、都市と農村の交流の場になり、地域の農業振興や活性化に役割を果たす。	上小
	小ロットでも店頭に並ぶことが重要で、直売所だけでなく都市部や観光に活用していかなければならない。	上小
	直売所に野菜を納入しているが、値段が安すぎる。直売所に野菜を納入する場合の価格を維持する組織が欲しい。	木曾
	農業のノウハウがある高齢者が作った作物を売ることができる場所が欲しい。	佐久
	農産物をただ出荷するのではなく、包装に生産地名や地図を入れるなどPRしてはどうか。	北信
	農産物の付加価値を高めるため、諏訪ブランドを一本化してはどうか。	諏訪
	温暖化により高冷地の特産物の生産に影響が出ている。農業においても環境対策の必要性が増している。	諏訪
	環境にやさしい農業への対応は、組織的に取り組むことが難しく、出荷に至るまでのハードルが高い。	諏訪
	次世代に農業を引き継ぐためには、食糧自給率を高め、持続的に儲かる農業の構築が必要。思い切った施策をお願いしたい。	諏訪
	地産地消で旬のものを集めることが必要	上小
	地産地消の意味はお金ではないところにある。その地域の農業を支え、農業とともに生きていけるセーフティネットを市民の手でつくる地域づくりが必要	上小
	地産地消は食文化とともに残していかなないと意味がない。旬の時期に旬のものを食べるという、市民の毎日の営みにより食文化が守られる。	上小
	高齢者等の協力により、食の文化を継承していくことに力を入れて欲しい。	諏訪
	国土を保全し食を守ることに加え、高齢になっても元気で働ける場を提供してくれるといった農業の役割への認識を高め、6次産業化、学校給食における地産地消などを更に進めて欲しい。	諏訪
	農業の6次産業化のためには、農産物に付加価値をつけ、いかに売ることが課題だが、高齢化が支障となっている。	諏訪
	空き農地が多くあるので、高齢者や仕事のない若者への就業支援に活用してはどうか。	飯伊
	農業でも他産業と同じ収入が得られるような政策が必要	飯伊
	地産地消に取り組む市場の開催を推進して欲しい。	松本
	農業用の各水利施設の老朽化に伴う更新、畑地かんがい施設の更新が必要である。	松本
	食料供給力を強化するため、大区画ほ場整備（再整備）を進め、生産性の向上を図る取組が必要	松本
林業・木材産業	木を伐って、植えて育てて一人前にして、また伐って循環させるというシステムが山を育てるために必要	上小
	間伐材をチップ材やバイオマス燃料などとして活用する方法を検討して欲しい。	木曾
	都会から人を呼び寄せて山で働く場をつくったらどうか。	上小
	山を育てるにはしばらくは行政の支援が必要だが、いつかは自立した山づくりができれば良い。	上小

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
林業・木材産業	木材の価格は、過去50年間で最も安くなっている。このため、山林所有者の経営意欲がなくなっている。一方で、森林保全に対する国民の期待は高い。こうした中で、森林を維持・管理していくためには、林道の整備が必要である。森林税を活用して、問題の解決にあたって欲しい。	木曽
	信州型エコ住宅・環の住まい整備推進事業を見直し、地元産資材の活用が増えるようなシステムの構築をお願いしたい。	諏訪
	林業振興のため、建築資材等にはその地域産の木材を活用されたい。	飯伊
建設業	建設業は地域経済と雇用を支えているが、建設投資の減少や価格競争の激化、資材の価格高騰等により、厳しい経営環境にある。生産性を向上させ、成長力を確保するために、経営力や人材育成強化への支援、入札契約制度改革などにより、建設業の活力回復の推進を図る施策が必要	大北
	緊急時に十分な対応ができるよう、建設関連企業の体力を失わせないための取組（必要な公共事業の実施等）が必要	松本
	木材の地元消費量を増やすため、地域材を使った木造建築を得意とする設計士の養成など、大工、建具、製材技術の復活に取り組むべき。	松本
	災害復旧には地元の建設業者が不可欠であるため、建設業者を育成する入札制度が必要では。	飯伊
商業・サービス業	地域にとって非常に心配なことは、中心市街地の活力低下と観光地利用数の伸び悩み。この2つの問題を解決するカギは人づくり。店屋で商売をする経験を積んでもらうことで、自分も商売人になろうと思うような子どもを地域に根付かせ、更に大手資本に対抗する戦略を考えていくことが必要	上伊那
	商店街の魅力は近隣の特色あるいいものが集まっていること。特色のない商店街はがんばっても助けられない。	上小
	買い物弱者対策に更に力を入れるべき。	諏訪
	高齢化社会の中で、買い物弱者の問題が更に深刻になる前に対応をお願いしたい。	諏訪
	買い物弱者対策のため、高齢者が積極的に買物に出掛けることができる環境整備、きめ細かい交通網の整備、「共助の心」の啓蒙、民間事業者の積極的な参画を促すことが必要では。	飯伊
	買い物弱者対策として、交通事業者、送迎を行う商店、運転ボランティア等に対し、補助を行って欲しい。	松本
	買い物難民対策には、生鮮三品業者の育成・支援、デマンド交通体系の整備等広範な分野での対応が必要であるため、モデル地区を設定し、関係部局で構成するチームにより対応してはどうか。	松本
	商店街及び中小企業活性化のための支援に取り組むべき。（商店街、商業者が元気になるようなアドバイス、支援を）	松本
ブランド	人を呼ぶためには、有名になることが必要であり、それが地域振興にもつながる。	佐久
雇用・労働環境	技能五輪終了後も、若手技術者、特に課題解決能力のある技術者の育成の継続をお願いしたい。	諏訪
	人材を大切にすることが経済の活性化につながる。地元の雇用の安定や、特に地域の若者の就職支援に力を注いで欲しい。	諏訪
	リニア中央新幹線の開通を見据え、若者に魅力のある就労の場と生活基盤を築ける政策が必要	飯伊
	新卒者と中小企業のマッチングを図るべき。	諏訪
	Iターン者を雇用する団体、企業への大胆な助成が必要	飯伊
	雇用創出のため、様々な産業の創出及び遊休農地利用による支援を行うべき。	松本

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
健康	地域住民の健康のためには、医師と他職種との連携が益々重要になるので、行政が中心になって進めて頂きたい。	佐久
	ますます本格化する少子高齢化社会の中で、健康で活力ある地域づくり、全ての県民の健康な生活のためには、高血圧、糖尿病などの生活習慣病予防事業が重要である。	北信
	「寝たきり」になる大きな原因は、脳血管疾患や心疾患であり、その原因としては生活習慣病（高血圧、糖尿病、高脂血症）が大きく関わっている。今後、医療費や介護費用をこれ以上増やさないためには、「生活習慣病」を改めて見直して、積極的な予防策をとることが必要	大北
	健康増進のためには、わかりやすい情報提供や、運動や食事、生活習慣病、加齢に伴う体の変化などを学べる健康教室を小さな地域単位で開催することが、地域全体の健康意識を高めていくと考える。こうしたことで、健康保険料の抑制や、健康寿命の伸びにつながる。	大北
	健康で高齢化を迎えるための健康管理を推進すべき。	飯伊
	次世代の子供たちが健康に育つために、経済・医療・教育の充実が必要	大北
	予防接種で守れる病気から子供を守るため、予防接種行政を充実し、市町村への指導を徹底して欲しい。	松本
	予防接種の同時接種の安全性について県民に広報し、生後6か月までにワクチンスケジュールを完了できるようにして欲しい。	松本
医療	医者や看護師への負担は、施設の規模等によっても異なる。医療従事者数等の目標は、単に人数だけではなく施設ごとに定めることも考えて欲しい。	佐久
	医療従事者にかかっている負担の実態について、地域住民に啓発することが必要である。	佐久
	より良い医療の推進のためには、医師だけではなく、看護師の確保が不可欠である。このため、木曾看護専門学校の今後のあり方について、早急に決定して頂く必要がある。	木曾
	木曾の正看護師の養成コースが廃止されることになった。看護師不足は深刻化しており、行政の支援が得られれば医師会が主体となって諏訪地域に正看護師の養成機関を設けてもよいと考えている。検討をお願いしたい。	諏訪
	看護職等が就職後、資格取得や新しい知識、技術研修ができる環境が必要	飯伊
	医療機関相互の機能分担と連携強化を進めていく上では、住民の理解が不可欠であるので、そうした理解を得るために、行政の力添えもお願いしたい。	佐久
	リニア中央新幹線の開通により、患者が都会の有名病院へ出て行ってしまう懸念もある。そのため、地域の医療レベルを向上させる必要がある。	飯伊
	木曾病院の脳神経外科の再開を強く求める。	木曾
子育て	結婚できない若者が多いため、「結婚相談員」いう名称を「結婚推進員」に変えてはどうか。	飯伊
	親になる教育、育児を学習、体験する場を行政が設定することが必要である。	上小
	現在、核家族化が進んでいるので、若いお母さん達は子育てに非常に悩み困っている。そうしたお母さん達にさしのべる手は、選択肢を多くすることが必要。いろんな選択肢を広げてやることによって、お母さん達の不安を取り除くことができるのではないかと。	上伊那
	少子化で分娩自体が急速に減っているということが危惧されるわけで、女性が安心して子どもを産み育てられるような環境をつくっていくところを何とかしないと子育てどころではない。人づくりの前にやらなければいけない。	上伊那

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
子育て	子育てが、依存する、助けてもらうということが前に出ているが、自立を促す方向に転換すべきでは。	飯伊
	託児所、あるいは保育所等保護者が安心して子育てができるような環境づくりが大切	飯伊
	人口減少社会を迎える中で、地域住民が協力し合って子育てに取り組む必要がある。	諏訪
	労働人口が減少しており、女性の社会参加が求められている。社会全体で子育てをする体制づくりが必要	諏訪
	子どもへの給付金等の支援策は、子ども自身のために有効に使われるようにお願いしたい。	諏訪
	不妊治療のための費用無料化、職務免除の制度を検討されたい。	飯伊
高齢者福祉	老人クラブでは、健康・奉仕・友愛をモットーに活動を行っている。そうしたなかで、観光客の皆さんへの説明・ガイドを老人クラブで引き受けることができないかと考えている。そのための研修等を県などに実施していただけないものか。観光振興のため、老人クラブを活用して頂きたい。	木曾
	税収が減少し予算規模が縮小する中、誰にも居場所がある、出番があるという考え方のもと、高齢者の「老人力」を活用してはどうか。	北信
	健康な高齢者に無理のない範囲で、働く場や社会貢献の機会を提供することが福祉として必要では。	飯伊
	高齢者の人材を社会の中で有効に活用してもらえらる場の提供が必要	諏訪
	今後は、高齢者が増えていくので、そうした人々が持つ能力を発揮できる社会づくりが必要	大北
	老人のための福祉施設を用意することより、年を取った人たちが楽しみを見出して暮らしができるか、といった点にもう少しエネルギーを割くべき。依存した生き方から、自立を促す方向に転換すべきでは。	飯伊
	高齢化社会のマイナス面のみを強調するのではなく、県として地域独自の生産年齢人口構成（例えば70歳以下など）を提示してもよいのではないか。	諏訪
	少子・高齢化により、今後、多死化が問題になる。例えば、身寄りがいない人の終末期医療をどうするか、葬儀はどうするのかなど。	佐久
	老老介護における労力の負担軽減、介護される高齢者への医療の充実など、きめ細かな対応が必要では。	飯伊
	高齢化率は、地域によって異なる。福祉施策を講じるためには、地域ごとにきめ細かく行う必要がある。	佐久
	認知症対策として、地域ぐるみで認知症を学び、地域ぐるみで見守る態勢の確立を支援してはどうか。	飯伊
	高齢者のニーズに合った施設の整備をお願いしたい。	諏訪
	現在、宅老所、老人ホーム等高齢者の施設が非常に少ないので、高齢者社会を迎えるに当たり、充実していく必要がある。	飯伊
まちのユニバーサルデザイン化をさらに進め、高齢者が家にこもることなく積極的に外に出て、生き活きと暮らせるまちづくりが必要	飯伊	
障害者福祉	借家を利用してグループホームを運営する場合、消防法上の規制が厳しくなってきたり、その利用が困難になっている。	佐久
	障害者の高齢化が課題である。今後、障害者が高齢になった場合の生活の場の確保が必要である。	木曾
	グループホームに関する地域の理解が一層必要である。	佐久

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
障害者福祉	障害者に対する地元の理解がなかなか得られない。魅力ある地域づくりのためには、ホスピタリティが基本。障害者が幸せに暮らせる地域づくりに力添えをお願いしたい。	諏訪
	障害者が就労できないという固定観念を取り除きたい。そのためにも、障害者の就労の場の確保に真剣に取り組んで頂きたい。	木曾
	発達障害者を支援する機関の間において引継ぎする仕組みがつくられていない。	上小
	地域全体で発達障害者支援の専門職を育成していく必要がある。	上小
	発達障害者を診ることのできる医療機関の充実が必要である。	上小
	幼児期に発達障害が疑われる場合、その子の成長する力を生かせるよう教育の土台に乗せることが大切である。	上小
	障害者の機能訓練等の充実が求められる。病院以外の場所での機能訓練の実施について検討を頂きたい。	木曾
地域福祉	地域コミュニティが弱まっている感じがする。	佐久
	中学校区単位くらいの人たちが身近にどうつながって生活していくかが重要	上小
	東日本大震災以降、民生委員としても災害弱者をどのようにサポートできるか心配。行政側も民生委員が活動しやすいよう、必要な情報を出して欲しい。	大北
	高齢者のゴミ出しにあたり、地域で協力する体制づくりが必要である。	木曾
	福祉職場は、就職を希望する人が少ない。	佐久
	福祉の現場は、常に人手が不足している。若い人を確保することはもちろんだが、高齢者を活用することも大事だと思う。方策を検討頂きたい。	木曾
社会援護	刑務所から出所した知的障害者、外国人など社会的な弱者に対するいろいろな支援措置を講じて欲しい。	佐久
	医療費の自己負担の軽減やこどもの医療補助制度の充実が必要	飯伊
治山・治水・砂防	釜口水門の水量を600t/秒に増やすことができれば減災につながるので、検討して欲しい。	諏訪
	土砂が堆積した砂防堰堤の回復を進めて欲しい。	諏訪
	土砂災害警戒区域の早期解消をお願いしたい。	諏訪
防災	耐震化工事のための補助金の額をもっと上げて欲しい。	木曾
	昭和50年までに建てた住宅等の耐震化が、高齢化等により進んでいない。同居世帯が増えるような地域づくりをお願いしたい。	諏訪
	防災のため、オープンスペース、備蓄、道路網等都市計画やハード面の整備を進めて欲しい。	諏訪
	災害対応のため、仮設住宅資材の備蓄、緊急輸送路・迂回路・橋梁の確保、バイパスの整備とともに、液状化対策をお願いしたい。	諏訪
	東海地震強化地域で、山間僻地、広大な地域であるため、防災ヘリの設置等強力な防災体制の整備をお願いしたい。	飯伊
	大規模災害後の仮設住宅の建設に当たっては、被災者が木の温もりを感じ安心できるよう、短期間に設計・加工・建設できる工事業者との協定を研究してはどうか。	飯伊

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
防災	首都直下型地震が懸念され、リニア中央新幹線も開通することから、長野県への首都機能の移転を国に積極的に働きかけられたい。	飯伊
	緊急時の通信手段のあり方、道路整備及び二次交通の整備に一層尽力して欲しい。	松本
	被災後のシミュレーションを行い、地域の気候等に配慮した支援の方法を検討すべき。	松本
	消防団の充足率は高いが、サラリーマンの隊員が多く、実動数は足りない。消防団協力事業所の間口を広めるとともに表示制度の周知・啓発をお願いしたい。	諏訪
	市町村では消防団員の優遇制度に取り組んでいるところもある。県もこのような取組を補助する制度を検討して欲しい。	諏訪
	東日本大震災を教訓とした地域の防災力を、少し方向性を変えて強化する必要があるのではないか。	飯伊
	地域づくり団体のネットワークを災害時等に活用できる全国的なネットワークに広げていってはどうか。	飯伊
	防災力の強化は、住民の防災意識の高揚が肝要であるため、隣組などの小組織単位での訓練を行い、「自分の命は自分が守る」という意識の徹底が必要	飯伊
	災害弱者マップづくりは、プライバシーの問題がありなかなか進まないようだが、迅速な救命のためにはマップづくりが必要であり、医療関係者は人命はプライバシーよりも優先すべきであるという考えを持っている。住民の皆さんにも理解して頂きたい。	大北
	個人情報に法律に基づいて厳密に管理されることは当然だが、災害時は近隣の方々からの支援や協力を得た方がよい場合があるため、個人や家族の了解のもとに個人情報を活用する方策が検討できないか。	大北
	災害時において、地元の地域や企業と連携が図れるよう、学校、幼稚園等は普段から地元地域等と綿密な連携を図っていくことが必要	飯伊
	子どものための防災教育は、より地域に即した具体的で分かりやすいものとして欲しい。	諏訪
	地震が発生した時、何をしたらいいのかということを経験の場で取り入れて欲しい。	北信
	有事に備えて日ごろから、警察・消防・自衛隊・日本赤十字社などが連携して訓練をしても良いのでは。また、地域住民が希望すれば個人参加できるような地域に密着した訓練があるといい。	大北
	防災訓練は健康な成人だけで行うのではなく、子どもの参加や病弱な方を運び出す等、きめ細やかな対応が必要	飯伊
	男女共同参画の観点から、男女双方のニーズに沿った防災マニュアルの整備をお願いしたい。	諏訪
交通安全	野生動物に関するロードキル問題に対応するため、ドライバーへの普及啓発とともに、安全性も考えた道路構造のあり方も検討して欲しい。	佐久
消費生活	多様化する消費者問題を積極的に啓発し、消費者の自立を支援していく場を作ることが必要	諏訪
	消費者センター岡谷支所が廃止される。市町村の相談体制が整っていないところもあるので、相談対応の手配をお願いしたい。	諏訪
食品・医薬品等の安全	現在の放射能の問題に関し、食の安全が問われることを危惧している。調査を十分に行う必要がある。	佐久

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
学校教育	学力向上、不登校対策、障害児教育が重要である。子どもは、学ぶ意欲はあるので、それをどのようにつなげていくかが重要である。	佐久
	若者の無関心への対応として、愛着が持てる地域のアイデンティティが重要。文化伝統を担う次世代育成のためにも、地域の良さを学校等で啓発すべき。	諏訪
	小学校段階の学校教育の中でいろいろな人材や専門家の力を借りて体験学習に参加したり、特に自然、産業のあたりは意識的にやることを我々は目標にして体系的にやったらどうか。そういう組織を作ったらどうか。	上伊那
	企業と一体となったキャリア教育を充実していくこと。具体的には地域の企業に大いに中学生あるいは高校生の生涯体験学習を取り入れて頂き、中学生、高校生が1週間くらい企業の中に入って学習できるような環境づくりを是非支援して頂きたい。	上伊那
	地域の農家の皆さんが給食の食材などを作ってくれているが、そういう食材作り子ども達に関わっているような活動ができれば、自ずと点ではなくて線としての農業体験学習になっていくのではないかな。	上伊那
	中高一貫となる諏訪清陵高校では、ものづくり教育に取り組んで欲しい。	諏訪
	30人規模学級の実現が必要である。	佐久
	高校再編は地元の声を聞いて進めて欲しい。	諏訪
	子ども達にとって魅力ある学校というのは所属意識の高い学校である。所属意識の高い学校というのはその学校の特色が出なくてはいけないので、特色を出す取組に支援をして頂きたい。	上伊那
	子どもが行きたくなる学校づくりに取り組んで欲しい。	諏訪
	優秀な子供たちを県内に留めておくためにも県短大の4年制化や特色・魅力ある高校づくりを考えて欲しい。	北信
	男子の高等教育機関がないことが、男子の流出に繋がっていると考える。ただし、学校があればいいのではなく、地域の魅力を打ち出していくことも必要となる。	飯伊
	中小企業における人材の育成と確保のため、佐久大学に理工系学部の設置の後押し等をお願いしたい。	佐久
	学校だけでは、いじめ問題の解決は難しい。家庭や地域で取り組む必要がある。	諏訪
	不登校・いじめの話では、今まで学校が頑張る、家庭が頑張るとやってきていたが、地域で子ども達をどう受け止めていくのかという視点を、どう据えるかというところに来ているのではないかな。	上伊那
	いじめ・不登校は、人間関係力の低下によって生まれてきているので、人間関係力を子供達に培っているのは何かという視点が必要	上伊那
	0歳から15歳まで同じ人間関係の中で過ごすことが、人口の流出に繋がっていると思われる。もっと多様な経験、多様な人とのつながりが必要ではないかな。	飯伊
	小学生が持つ、金で解決しようとする世界観を変える議論をする必要がある。	佐久
	生きがい学習への支援をお願いしたい。	諏訪
	思春期の健康教育が大切である。	上小
障害を持った子どもを高校で受け入れてくれないため、小諸養護学校の生徒が増えすぎている。こうした子どものケアを考えて欲しい。	佐久	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
学校教育	P T Aの役員のなり手がいない。	佐久
	もう少し学校現場で取り組まれている事実を大事に受け止めて頂いて、それを更に深化していく。その支援をして頂く視点でお願いしたい。	上伊那
	学生の活動に地元の支援が少ない。学生と大人が出会える場の提供が必要	上小
	定時制の生徒が、普通の高校生活を送れるよう、配慮をお願いしたい。	木曾
	学校と地域、公民館等の地域団体との連携に係る指針や手引きを作成するなど、学校が取り組みやすい環境づくりをし、地域との連携を促進して欲しい。	松本
生涯学習・青少年	地域にいて感じるのは、公民館と図書館の役割が非常に大きいこと。計画の中に公民館・図書館との連携を入れた方が良い。	上伊那
	企業の力を家庭教育に取り込む施策が必要である。	佐久
芸術文化・地域文化	人口減少社会において、国際的視点をもちながら地域の文化を大切にした生活を送ること。	上小
	伝統文化・芸能を継承するための補助金等側面的支援の拡充が必要	飯伊

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
地域活性化	市町村による広域行政には限界があるため、地方事務所がリーダーシップをとって包括的、戦略的な施策の展開を行って欲しい。	飯伊
	長野県は東西南北、気候風土が大きく違い、一つにまとめ難い地域であると考えてるので、無理にまとめようとせず、地域の実情を吸い上げる施策が必要	大北
	県の役割を考える上で、基礎自治体である市町村と県との関連性を考える必要があるのではないか。	松本
	地域住民が常に交流連携を保ち、共助できる地域づくりが必要	飯伊
	消防団活動等は大事のときには目がいくが、日々の活動の中でなかなか目がいかないというのが現状。そういった住民の活動の重要性をもう少しアピールするような形にしていった方がいい。	上伊那
	地域の活動をどうしていくかが重要になってくる。行政が推進をしていくというよりも「具体的に活動していくなだよ」というところをもう少し前面に出し、住民の方が中心になってやっていく方向がいいのではないかな。	上伊那
	誇りが持てるような地域づくり、地元深く愛着を持てるような教育をして欲しい。	北信
	人づくり、人が喜んで住める地域社会、子供達が地元故郷に帰りたいという地域づくりを目指した方向性を、何らかの文言でもう少し明確にして出していったらいいのでは。	上伊那
	地域の子ども会のリーダー達が県外で就職してしまう。県内へ戻って来るような魅力ある地域づくりをお願いしたい。	諏訪
	地域の人材育成には、子どもが小さい頃から地域の行事に積極的に参加することが必要。つながりが出来て、地元で親しみや愛着を持つようになる。	飯伊
	地域活性化を図るため、若い力をもっと利用し、若い人のモチベーションを上げることが必要では。	飯伊
	リニア中央新幹線の開通を見据え、特色ある産業と自然豊かな地域性を活かし、歴史と伝統文化を残す地域づくりが大切	飯伊
	地域のロケーションをどう生かしていくかという、地勢学的な地誌学的な発想を持って捉えても良いのでは。	上伊那
	統合により廃校となる高校の跡地について、どのように活用し地域振興に役立てるかという県のメッセージを5か年計画に盛り込んで欲しい。	飯伊
	山村では、既に少子高齢化や福祉医療はピークであるため、先進的な取組を検証し、地域にあった取組を探していく必要があるのでは。	飯伊
	人口減少、コンパクト社会を迎え、集落や地域さえなかなか維持できないという事態が起きてくる中で、地元の住民自身が頑張ることと、同時に地元がどこと連携をしていくかを工夫していくことが必要	上伊那
	地域づくりの活動では、特に県外への情報発信が難しく、行政の支援が必要である。	上小
	元気づくり支援金を受けている団体同士が連絡を取り合うことで地域の振興に資することが期待できる。交流の場面の設定をお願いしたい。	木曾
	地域で活動する団体同士が手を繋ぎ、組織を広げるような取組について支援して欲しい。	松本
	行政と連携しながら地域で活動している団体に対しては、行政も継続的に支援して欲しい。	松本
行政だけでなく、地域づくりにおいても縦割りとなっているので、様々な分野を繋いでいくことが必要	松本	
地域の資源を生かしていくためのソフト（仕組み）を考えていくことが必要	松本	
計画策定においては、コミュニティづくり、様々な施策を担う担い手の育成という視点が重要	松本	

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
NPO・ボランティア	地域貢献型のNPO等を支援するなど、自分たちで自分たちを支えていき、幸福を感じられ、支援を受ける人も素晴らしい地域だと思えるような仕組みが必要である。	北信
	公・共・私の共（NPO活動）の領域である市民事業を支援していくという意識を持って連携・協働してもらいたい。	上小
	仕事起こしや野外保育など、頑張っている民間非営利団体を支援できる制度が必要	大北
	行政と市民、あるいは市民同士の協働する部分をもっと作り出し、新しいコミュニティづくりをすることが必要	上小
	芸術・文化のイベントや災害時の食料配分等において、行政ができない部分をマネジメントする市民の育成が必要	飯伊
男女共同参画	男女共同参画の取組には市町村により温度差がある。審議会の女性委員の比率等の数値目標達成のためには男性の応援が不可欠。地域で足並みをそろえて取り組んで欲しい。	諏訪
	女性が地域で頑張るには、家庭の中でその地位が認められることが必要と思っている。	佐久
国際化	災害時の対応の面からも、在日外国人の日本語教育に力を入れて欲しい。	諏訪
	県の5か年計画は、グローバル化という言葉がでてくるだけで、実際は対応できていない。	飯伊
農山村	森林セラピーは心を和ませる。子どもたちを自然の中で心豊かに育てることが必要	上小
	都会との交流が、地域のすばらしさを再認識する機会となり、仕事に対する自信にも繋がっている。この取組を広げ、地域の魅力に繋げていけるよう行政支援をお願いしたい。	飯伊
	「食」「農」「命」の健全な循環をキーワードにして、伝統を活かしながら、新しい生活スタイル、農業、林業のあり方を模索し、安心して安全な地域、子どもを健やかに育て、老いてなお地域における生活者として自己実現ができる、そんな県であることが望ましいあり方ではないか。また、そのあり様は、他県のモデルとなり、長野県としてのブランド力を持つことにつながる。	大北
	リニア中央新幹線の開通を見据え、農業体験を中心とした観光産業の活性化や「のんびり、ゆったり」を合言葉に都会、又は世界から人が集まる地域を目指してはどうか。	飯伊
	農村を直に知ってもらうため、都会のリタイヤ層や時間がある若者を対象に農作業ボランティア体験ツアーを実施してはどうか。これにより、ツアー参加者が長野の宣伝マンになって長野の良さをPRし、農村で暮らしてもいいという人も期待できる。	北信
	農地付きの空家が増えているので、クラインガルテンのように貸出すなど活用してはどうか。	飯伊
	都会の企業をリタイヤした人に住んでもらい、マネジメントができない企業に対して、大手のノウハウを活かしてもらってはどうか。ただし、受入れには福祉の充実が必須	飯伊
	都会の子育て世代に対して、保育や教育内容の充実も含めた長野県ならではの子育てメリットと福祉や雇用の情報を組み合わせた情報を発信し、定住促進の流れをつくることを県政の中に位置づけて欲しい。	大北
	若者が定着し、就労できる地域づくりが必要。自然環境に恵まれた地域を大いに宣伝し、住んでもらうことが必要。生計を立てるために伝統文化を活かすことを考えてはどうか。	飯伊
	地域の良さを知ればもっと学生が地域に残っていくと思う。	上小

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
農山村	集落の世帯数の減少、高齢化が進んでいる。若者の定着、外からの移住等により集落を維持する努力が必要である。	北信
	急激に人口が減少すると、町村のコミュニティが成り立たなくなる恐れがある。様々な方策をとり、人口の減少を食い止める工夫をして頂きたい。	木曾
	過疎地の人口増加のため、Iターン、移住の促進が大切。そのため、雇用や住居の確保等大胆な支援をお願いしたい。	飯伊
	住居の安定ということを考えると、多様な住まい方の受け入れが豊かさと楽しさにつながるという面から二地域居住を提案する。二地域居住には仕事と住まいが整っていることが必要であり、空き家や不要となった公共施設の利用とビジネス支援を実施すべきである。多様な世代の混在が元気な地域を作っていく。	北信
	被災地から集落単位で移住者を受け入れてはどうか。	飯伊
	5か年計画は、長野県にもっと都会人を引き付けることを意識してつくるべき	松本
都市環境・住環境	車前提の社会ではなく、歩いて暮らせる社会、まちづくりを進めて欲しい。	飯伊
高速交通ネットワーク	リニアの駅を核とした交通体系の整備が必要	飯伊
	リニア新幹線の開通前と開通後のビジョンや経済効果を分けて検討すべき。	飯伊
	中部横断自動車道の早期全面開通が必要である。	佐久
	上高地へのアクセス強化のため、中部縦貫自動車道の整備促進に取り組むべき。	松本
	上高地へのアクセス道路の改良・整備に取り組むべき。（中部縦貫自動車道の整備、国道158号の改良を）	松本
	中部縦貫自動車道の整備、国道158号、国道19号の拡幅改良の早期着工をお願いしたい。	松本
	JR中央東線の充実、中部縦貫自動車道、国道158号の整備促進、松本糸魚川連絡道路等の整備を促進して欲しい。	松本
	松本空港の存続の検討に当たっては、代替措置として、バス・鉄道等公共交通の充実をお願いしたい。	諏訪
	松本空港の有効利用（PR活動）に取り組むべき。	松本
	松本空港を活用した商業及び観光振興に取り組むべき。（県外からの誘客を図り、宿泊型観光でまちの活性化を）	松本
松本空港から松本市街地までの移動手段の確保に取り組むべき。	松本	
道路ネットワーク	道路の整備ができれば、工業分野もちろん、観光の振興にも有益である。道路の整備に力を入れて頂きたい。	木曾
	生活道路において渋滞をなくすための道路整備、三才山トンネルの無料化や松本方面への高規格道路の整備を行って欲しい。	佐久
	医療機関に30分で行けるように生活道路を整備して欲しい。	飯伊
	川上村から佐久市方面への道路整備をお願いしたい。	佐久
	国道158号の改良に早期に着工し、完成させるべく取り組むべき。	松本
	県道上高地公園線、釜トンネル上の道路改良（トンネル化）に早期に着工し完成させるべく取り組むべき。	松本

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
道路ネットワーク	慢性的な交通渋滞を対象するため、新たなバイパス道路（国道143号または国道254号、国道152号）の整備、国道19号の拡幅等に取り組むべき。	松本
	国道158号の整備に積極的に取り組んで欲しい。	松本
	道路や河川環境整備については、行政が責任を持って行うべき。行政が進められないのであれば、地域の団体、企業等が協働して行えるよう、調整を行うべき。	松本
公共交通ネットワーク	廃線になった信越線の軽井沢・横川間を復活させて欲しい。	佐久
	地域の活力を維持する上で、各地で走っている100円バスは有効だと思う。これからも行政で支援していただき、廃止されることのないようにして頂きたい。	木曾
	松本市が取り組んでいる新たな公共交通について、県で一体的な事業を行うのであれば、共同で取り組んで欲しい。	松本

新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等	地域
県政の推進	現実にプランを立てたら、実行していくのは行政だけではなく、全ての住民がその方向に向かっていくことが必要。住民がやる気になるような動機づけが非常に大事	上伊那
	情報発信、知らせあうことが重要	上小
	リニア中央新幹線の開通を見据え、住民一人一人が地域のスポークスマンとして外部への情報発信するという取組みを推進してはどうか。	飯伊
	議会や審議会制度はあるが、一般の住民からは遠い存在。たくさんの方が政策立案に参加し、多くの知恵を効率的に低コストで集めることによって、政策に反映できるような仕組みづくりが必要	大北
	コミュニティづくりよりももう少し幅の広い圏域内のネットワークが重要	上小
	行政機関同士の連携が必要である。	佐久
	新しい問題が起きたときにチャレンジする風土を作ることが必要である。	佐久
	若い人のやる気をいかすため、審議会委員に高校生を入れるなど、若い人を政策を決める場に参加させることが必要である。	佐久
	施策、方向性を作る時に、長所を生かすという点、短所をいかにカバーして平均値に近づけていくかという点、更に継続していかなければならないという長所でも短所でもなく今までどおりにやっていきたいという点、そういう3方向がある。	上伊那
	急速な人口減少により、生活の隅々まで様々な影響が起きてくる。これにいかに対応し、どのような県づくりをしていくのか、まだ余裕があるうちに先を見越して考えていくことが必要	上伊那
	県の5か年計画は、計画を実行するための財源の記述がない。国の補助金等が減少する見込みである現状を考えた場合、計画を達成するための財源をどう確保するのか議論しなければならない。	飯伊
	国の予算制度は全国画一で、地域の気候風土や実情を踏まえた対応が難しいと思う。国の予算制度を、地域に合わせた予算処置がとれるよう、各方面に働きかけて欲しい。	大北
	縦割り行政（例えば、河川の管理区域など）の改善を図るべき。	松本
10年後、20年後をイメージし、それに向かってどういった方向で対応していくかという理念を共有すること、時間軸を意識することが計画策定においては必要ではないか。	松本	